

留意点

①病床機能報告は、定性的な基準に基づく自己申告であり、報告結果もまだ流動的

②病床機能報告は病棟単位で4つの機能を選択するが、将来推計は患者数から推計しており、そのまま比較できるものではない

病床機能報告	将来推計		
<p>病棟A (30床)</p> <p>この病棟は、高度急性期機能 (自己申告)</p>	<p>ある日の病棟A</p> <table border="1"> <tr> <td>高度急性期機能相当の患者 15人</td> <td>急性期機能相当の患者 15人</td> </tr> </table>	高度急性期機能相当の患者 15人	急性期機能相当の患者 15人
高度急性期機能相当の患者 15人	急性期機能相当の患者 15人		

ここを高度急性期機能の推計に活用

※将来推計の考え方は、地域医療構想p.27-29

③日頃の診療や業務の中で感じている地域の実情を勘案しながら、地域の医療の現状を見ていく必要がある

区東部の状況

<H27報告とH26報告の比較>

・この区域では年度間でほとんど変動がないが、東京都全域で見ると、高度急性期機能はH26年31,000床強がH27年では約23,500床で、約7,500床減

<H27報告の特徴>

・7対1入院基本料を届け出た病床の約2割が高度急性期機能、約8割が急性期機能を選択  
 ・高度急性期機能の稼働率は都平均より低く、平均在院日数は都平均並み。また、回復期機能の稼働率は都平均より低く、平均在院日数は都平均並み

<H27報告と将来推計>

・高度急性期機能を見ると、H27年度病床機能報告の病棟ごとの自己申告による報告は4,715床  
 ・将来(2025年)の患者数は高度急性期機能相当(3,000点以上)で2,834人と推計され、その患者を診るために必要な病床数は3,633床  
 ・但し、左記のとおりそのまま比較できるものではなく、1,000床以上減らさなければいけないという見方ではないことに留意

・そのままの比較は困難だが、将来推計において回復期機能が病床全体の32.5%を占めるのに対し、自己申告の値は10.1%とかなりのひらきがある。

・こうしたデータを参考にしながら、区東部において、不足すると考えられる機能や役割を検討する必要がある。

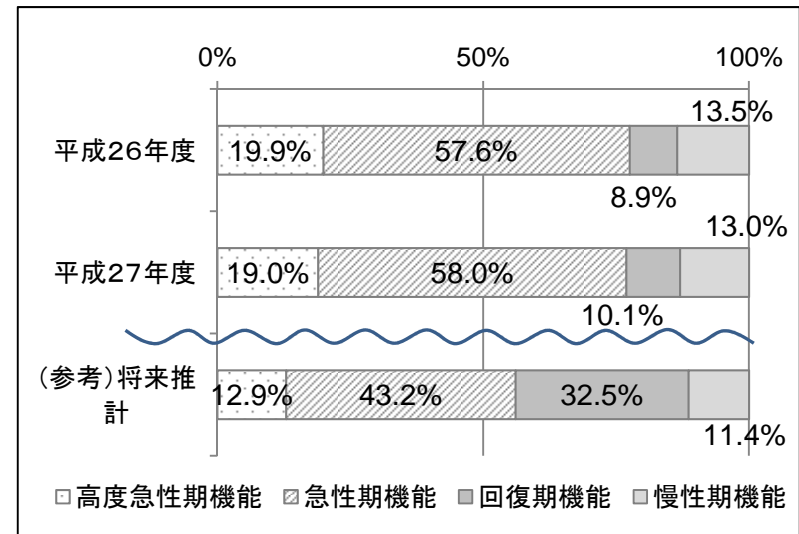
<データ1> 病床機能報告における4機能ごとの病床数

東京都地域医療構想 p.36、242-243参照

	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能	計※
平成26年度報告結果	1,636床 19.9%	4,727床 57.6%	733床 8.9%	1,109床 13.5%	8,205床 100.0%
平成27年度報告結果	1,543床 19.0%	4,715床 58.0%	821床 10.1%	1,055床 13.0%	8,134床 100.0%

※休棟及び未報告分を除く。割合(%)は機能ごとに小数点第二位を四捨五入。

(参考)将来推計	患者数	816人	2,834人	2,465人	880人	6,995人
	病床数	1,088床 12.9%	3,633床 43.2%	2,739床 32.5%	957床 11.4%	8,417床 100.0%
2013年推計足元	病床数	970.8床	3,085.8床	2,250.6床	2,034.8床	8,342.0床

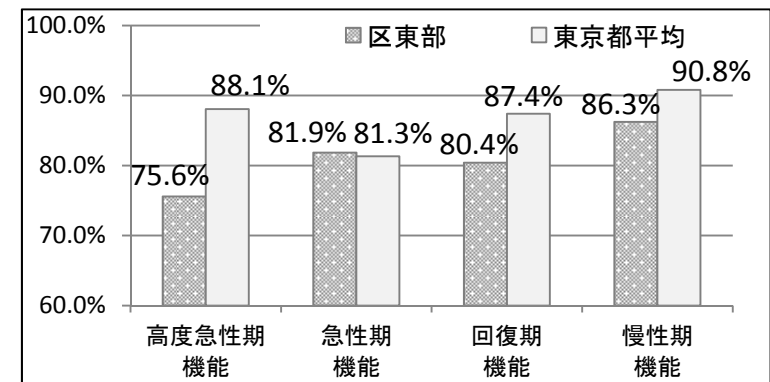


<データ2> 4機能と入院基本料

(床)

	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能
1 特定機能病院一般病棟入院基本料	651	一般病棟7対1入院基本料 2,621	回復期リハビリテーション病棟入院料 347	療養病棟入院基本料 600
2 一般病棟7対1入院基本料	592	一般病棟10対1入院基本料 913	地域包括ケア病棟入院料／入院医療管理料 202	障害者施設等入院基本料 191
3 一般病棟10対1入院基本料	75	一般病棟15対1入院基本料 323	有床診療所入院基本料 95	介護療養病床 186
4 特定集中治療室管理料	51	一般病棟13対1入院基本料 207	療養病棟入院基本料 48	回復期リハビリテーション病棟入院料 41
5 新生児治療回復室入院医療管理料	33	有床診療所入院基本料 199	一般病棟15:1入院基本料 34	有床診療所入院基本料 37

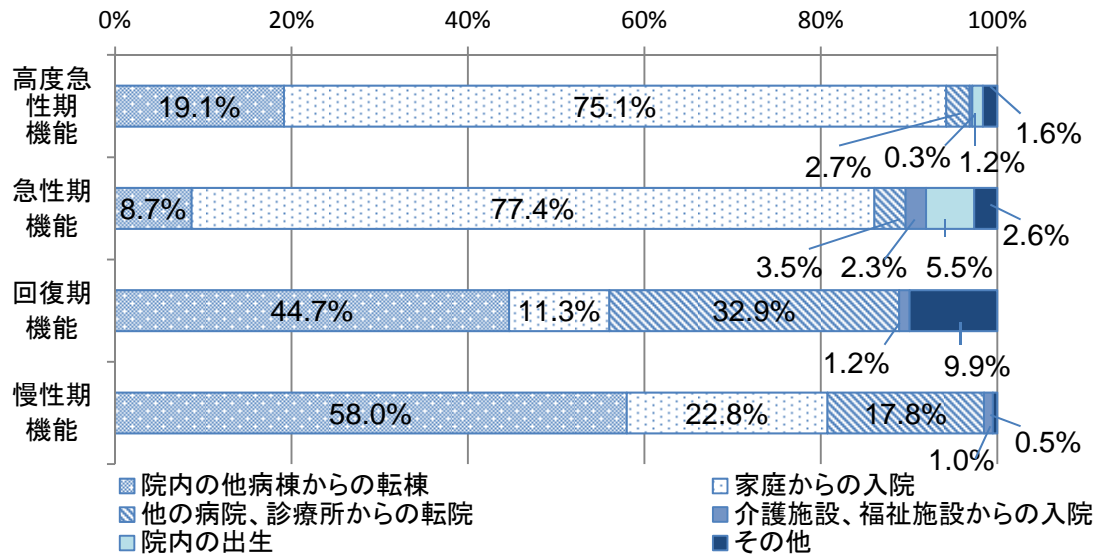
<データ3> 4機能と病床稼働率(病院)



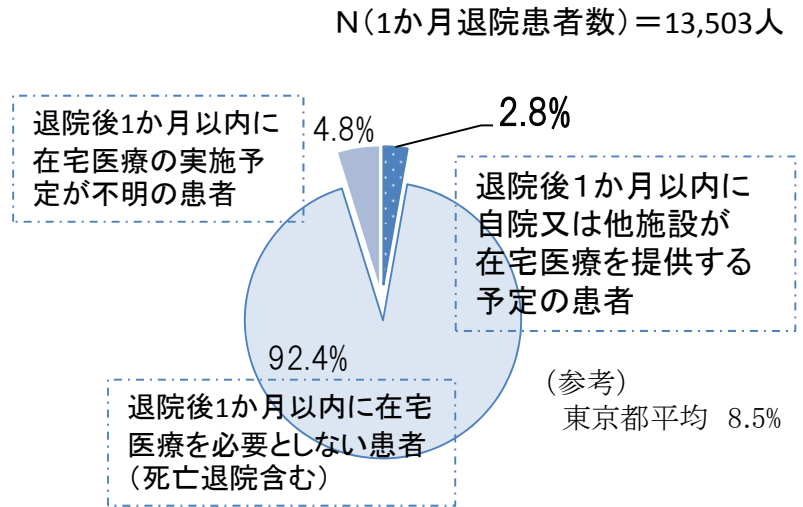
<データ4> 4機能と平均在院日数(病院)

機能	高度急性期機能	急性期機能	回復期機能	慢性期機能
平均在院日数	9.3日	11.7日	48.3日	110.7日

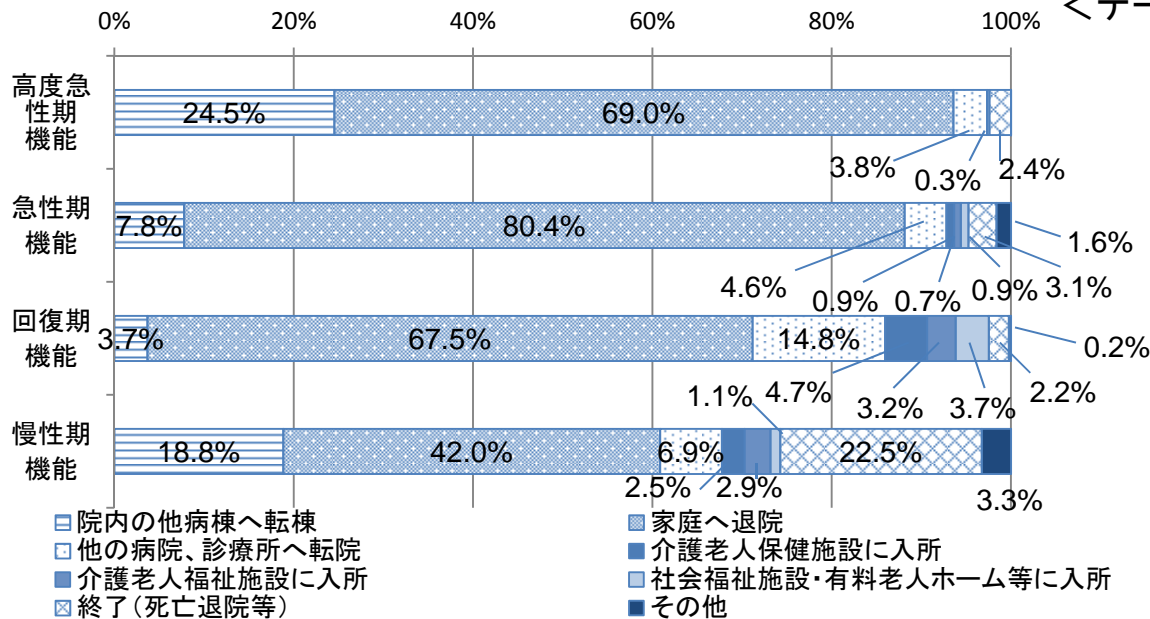
<データ5> 新規入棟患者の入棟前の場所（病院）



<データ7> 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合（病院）



<データ6> 退棟患者の退棟先の場所（病院）



<データ8> 有床診療所が地域で果たしている役割

有床診の病床の役割	施設数	割合
病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能	10施設	31.3%
専門医療を担って病院の役割を補完する機能	16施設	50.0%
緊急時に対応する機能	10施設	31.3%
在宅医療の拠点としての機能	5施設	15.6%
終末期医療を担う機能	6施設	18.8%
いずれにも該当しない	6施設	18.8%

注 報告のあった32施設を集計。複数回答可。